

平成 22 年度 福井県立大学大学院
経済・経営学研究科博士前期課程
入学者選抜試験問題(第 2 次)
専門科目
経済理論・経営理論分野

以下の問 1 と問 2 から 1 問 を選んで解答しなさい。

問 1 (経済理論) 以下の (1)、(2) の問に答えなさい。

(1) 利率を引き下げると、一般的には住宅需要が増加する。特にアメリカの場合、利率を下げると、住宅建設と自動車販売が増加し、景気が回復するということが言われてきた。しかし、2007 年 9 月以降の金利引き下げにもかかわらず、現在のアメリカの新規住宅建設は低迷したままである。

まず一般的に利率の低下が住宅建設を促進する理由を理論的に説明せよ。その後、それにもかかわらず、現在のアメリカで住宅建設が低迷している理由を理論的に説明せよ。

(2) 現在の日本では不況の中で安売り競争が激化していると言われている。この安売り競争について、日本のデフレを助長し、企業自身にとっても自らの首を絞める行為であるという主張がある。こうした主張は正しいであろうか。正しい、もしくは誤りであることを理論的に説明せよ。

問 2 (経営理論) 「いい会社」の評価は、何を以てすればよいのだろうか。2008 年以來の世界的大不況の下、それまで着実な実績をあげ、多くの人々が優良企業にあげていた大会社も巨額の赤字計上という事態で喘いでいる。このような中では、利益率や安定的な利益の計上だけに頼る企業評価の物差しは揺らいでくる。

企業評価の物差しは、他の経営指標と同様に、時代と社会によって変わってくる面がある。したがって、これは必ずしも一律的で永続的なものがあるとはいえない。とはいえ、市場的な役割が大きくなればなるほど、何らかの点で根拠に基づいた企業評価がもとめられるのもたしかである。そこで、ここでは企業を取りまく利害関係者の立場に立って、もっとも納得的な優良会社の条件を検討し、それを通して自分なりに「いい会社」を選別する基準について論じてみよ。なお、ここでの利害関係者の視点とは、たとえば経営者の視点、従業員の視点、顧客の視点、取引先の視点、金融機関の視点、投資家の視点、就職活動中の学生の視点などが考えられる。(回答にあたっては、これらの視点にすべてふれなければならないわけではない。自分が適切と思う一部の利害関係者の視点にふれるだけでもよい)。